

令和 3 (2021)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	衛星地球観測による新たな全球陸域水動態研究
研究代表者	沖 大幹 (東京大学・大学院工学系研究科・教授) ※令和 3 (2021)年 7 月末現在
研究期間	令和 3 (2021)年度～令和 7 (2025)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>【課題の概要】</p> <p>本研究は、地球規模での陸域にある水動態を把握しようとする研究であり、全球陸面モデルと河川モデルによる数値シミュレーション、人工衛星による地球観測情報、データ同化を組み合わせ、人間活動や河川動態を考慮した水動態監視・予測を可能にするシステムの構築を目的としている。</p> <p>水循環のグローバルな動態予測により、洪水発生などの現状把握、将来予測を通し、地球規模の水問題の解決に寄与しようとするスケールの大きな研究である。</p> <hr/> <p>【学術的意義、期待される研究成果等】</p> <p>グローバル水文学をリードする応募者がこれまでに提案してきた次世代陸域モデルに、最新の衛星観測による水面・水位観測データを組み合わせることで、これまで観測が困難であった人間活動を含めた水循環要素のグローバルな動態を明らかにするもので、観測・公開データの乏しい途上国などの水利施設運用や人間の水利用の実態解明をしつつ、将来の洪水予測及び対策に結び付けられる点で、学術的意義は大きい。早期に国際的に社会実装されることにより、世界の水問題の解決に大いに貢献することが期待される。</p>